

# 姫路市立小学校等給食室空調整備事業に関するサウンディング型市場調査

## 【調査結果】

姫路市学校施設課

本市では、近年の猛暑の影響により調理師の熱中症予防や、食材の衛生管理の質の向上が大きな課題となっているため、令和8年度から小学校等の給食室23校に空調を導入することを検討していますが、学校給食の提供をなるべく止めることなく早期に空調設備の導入を図りたいと考え、本市にとっての最適な発注とするため、民間事業者の皆様との対話を通じて、効果的・効率的な整備内容、整備スケジュール、想定される諸問題や解決方法などを把握し、検討に生かすことを目的として、サウンディング型市場調査（以下「サウンディング」という。）を実施しましたので、その結果を公表します。

### 1 実施経過

日 程	内 容
令和8年2月20日(金)	実施要領の公表
令和8年2月20日(金)～3月11日(水)	参加申込み
令和8年3月23日(月)～3月31日(火)	対話の実施

### 2 参加事業者

5事業者

### 3 調査内容

#### (1) 対象施設

小学校等の給食室 23施設

#### (2) 事業内容

調理室のほか、洗浄室・下処理室等の諸室（消毒室を除く）への冷房能力400W/m<sup>2</sup>程度、冷暖房切替型の空調機設置を想定。また空調機設置に伴う電気設備工事（電気室改修を含む。）及び建築付帯工事も本事業に含むものとします。

#### (3) 事業開始までのスケジュール

令和8年 2月～4月 サウンディング型市場調査  
令和8年度 下半期 本整備事業受託者決定（公募型プロポーザルを想定）  
契約締結  
整備開始（事業期間は2年程度を想定）

※注意 本調査の結果等により変更する可能性があります。

#### 4 結果概要

対 話 項 目		対話内容・意見
事業手法	①DB方式以外の発注手法について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DB方式では競争性が低下するためコスト面では、DB方式より従来方式が優れている。</li> <li>・総合的に考えると本事業ではDB方式が適している。</li> <li>・DBO方式は設計工事管理が一貫されているため、メンテナンス面において優位である。</li> <li>・DBO方式について、本市の市立学校には既に包括管理業務委託を導入しているため、O（運営）を含んでもコストが上昇する。</li> <li>・リース方式は、利率がある分DB方式に比べコストが上昇する。</li> <li>・リース方式は市の財政負担も軽減される。</li> </ul>
	②DB方式での参加実績について	参加実績がある事業者、ない事業者ともに複数者あった。
事業規模について	①1契約における発注規模について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1班で1年あたり4～5校施工可能である。</li> <li>・23校を2グループ程度に分けた契約とすることが適切である。</li> <li>・23校全てを1契約としても施工可能である。</li> <li>・同一事業者が複数契約をしない仕組みが望ましい。</li> </ul>
	②同時施工給食室数について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数班体制を構成できる。</li> <li>・完了後の都度引き渡しは可能である。</li> </ul>
空調設備の内容について	①空調方式について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イニシャルコストはEHP方式が優れている。</li> <li>・ランニングコストはGHP方式が優れている。</li> <li>・EHP方式は、電気容量が不足すると電気室の改修が必要となる。</li> <li>・パッケージ型は不具合時の対応が簡易である。</li> <li>・GHP方式は、保守点検が必要となる。</li> <li>・GHP方式は、運転音が大きく設置場所の制限がある。</li> <li>・GHP方式は、R32冷媒への変更過程にあり供給リスクがある。</li> <li>・GHP方式（パッケージ型）は、製品の種類が少なく給食室に整備することは不向きである。</li> </ul>
	②整備する空調能力について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理室洗浄室は400W/㎡が最低水準と考える。</li> <li>・調理室洗浄室は450W/㎡が望ましいと考える。</li> <li>・その他の部屋は200W/㎡程度でよいと考える。</li> <li>・その他の部屋は250W/㎡程度が望ましいと考える。</li> <li>・最も暑い時期は夏季休業中であり、給食室が稼働していないことから他の施設と比べ、能力が少し低くてもよい。</li> </ul>

工期・整備スケジュールについて	①標準的な整備スケジュール及び給食中止期間について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2か年あれば長期休業中に10校程度整備することは可能と考える。</li> <li>・アスベストの有無、壁貫通箇所の条件が工程に影響すると考える。</li> <li>・アスベストの有無により、工期には大きく影響しないが、一概には回答できない。</li> <li>・1校の給食室を使えない期間は2～3週間程度を想定している。</li> <li>・夏場は熱中症対策等による休憩を多くとるため、作業効率が低下する。</li> <li>・閑散期等にも施工を行いたいので、年間で工事を分散して行いたい。</li> </ul>
	②電気室改修時における停電期間の考え方について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休日のみの停電で整備することは可能と考える。</li> <li>・一概には回答できない。</li> </ul>
	③埋設配管の施工について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休日のみで施工することは可能と考える。</li> <li>・1週間程度施工に要することが想定され、休日のみでの施工は困難と考える。</li> <li>・一概には回答できない。</li> </ul>
市内事業者の参画・活用について		<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の広報誌やHPへ掲載することによりPRする。</li> <li>・市内業者とその他で評価の際に差をつける。</li> <li>・材料を市内業者から調達するなどを評価項目とする。</li> </ul>
留意すべき事項・リスクについて		<ul style="list-style-type: none"> <li>・空調工事が全体的に需給ひっ迫気味である。</li> <li>・現場管理者は慢性的に人手不足である。</li> <li>・人件費や資材価格が高騰している。</li> <li>・空調事業や大阪IRの影響により空調機（特にGHP）の長納期化及び人材確保も厳しい状況となっている。</li> <li>・GHP方式はR32冷媒への切替により、価格や納期にリスクが出てきている。</li> <li>・国際情勢の影響により、燃料費や資材価格が高騰する可能性がある。</li> <li>・トランスの納期が長期化している。</li> </ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・維持管理も含めた発注とすることが望ましい。</li> <li>・スポットダクトを採用することで空調負荷を落とせる可能性がある。</li> <li>・一級建築士事務所の参画を必須とせず、一級建築士を配置し、必要な設計体制を確保できることなどを参加要件とすると間口が広がる。</li> <li>・設計事務所との協力次第で、受注する意思はある。</li> <li>・他の自治体及び民間工事の動向によるが、参加する意思はある。</li> </ul>

## 5 サウンディング結果を踏まえた今後の方針

今回のサウンディングでは、複数の事業者の参加意向をいただきました。

事業手法については、O（運営）を含めた整備やリース方式のメリット、デメリットについてご意見をいただきました。これらを踏まえ、DB方式で検討を進めていきます。

空調方式については、それぞれの方式に係るメリット、デメリットについてご意見をいただきました。これらを踏まえ、不具合時の対応が簡易なパッケージ型空調機が給食室には適していると考え、パッケージ型空調機導入の検討を進めていきます。

今後はサウンディングの結果を踏まえ、公募に向け検討を進めていきます。